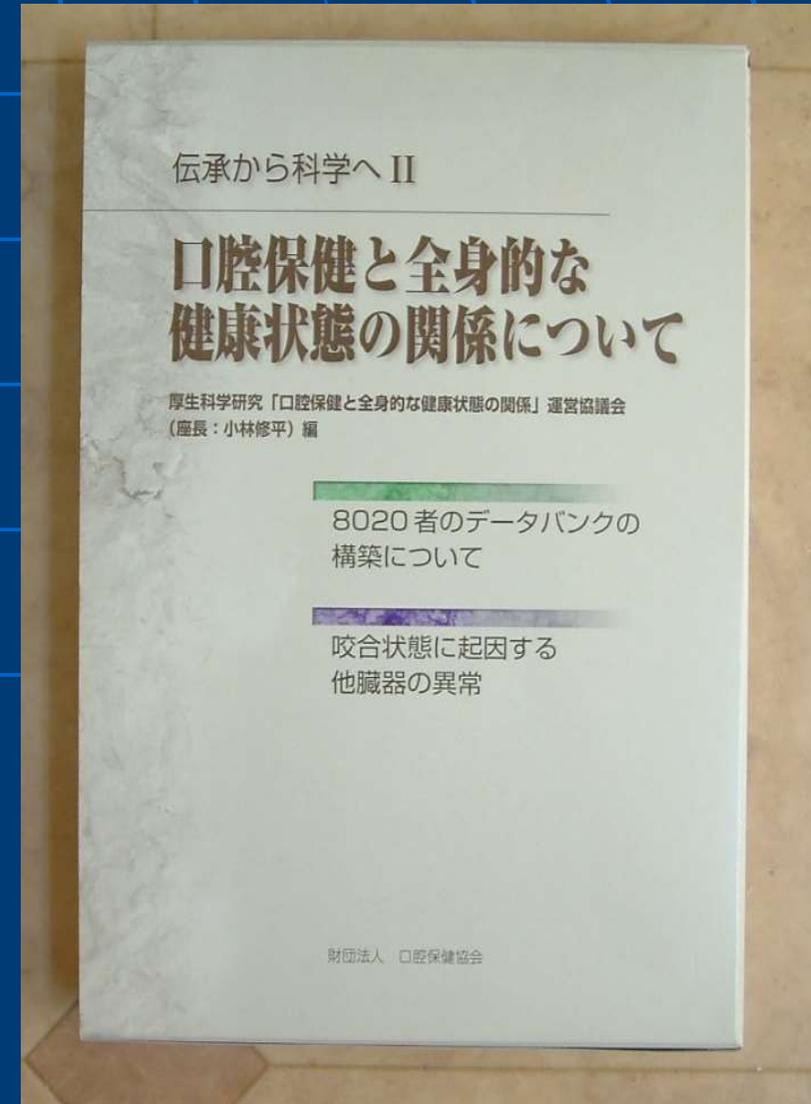


「口腔保健と全身的な健康状態の関係について」の研究

それまでも、大学や各研究機関、臨床施設等において様々な研究が行われていたが、平成8年、ようやく厚生労働省（当時：厚生省）が予算を組んで、上記テーマの研究やデータの集積を纏め上げるという事業が行われた。

まとめられた研究データ



研究事業運営協議会メンバー

口腔と全身の健康についての研究事業運営協議会（平成8年度）

座長	小林 修平	国立健康・栄養研究所長
	光安 一夫	日本歯科医師会専務理事
	西村 誠	日本歯科医師会常務理事
	下田 智久	厚生省大臣官房厚生科学課長
	石井 拓男	厚生省健康政策局歯科衛生課長
	簗輪 眞澄	国立公衆衛生院疫学部長
	青山 旬	国立公衆衛生院主任研究官
	花田 信弘	国立予防衛生研究所口腔科学部長
	養老 孟司	北里大学教授（学識経験者）
	斎藤 毅	日本歯科医学会副会長（学識経験者）

（敬称）

1. 咬合位の変化が上肢等尺性運動に及ぼす影響

上肢下垂位を0度として90度肩関節外転位で固定するレバーに対して、内転位方向へ随意最大努力にて負荷された等尺性筋力を測定した結果。

実験1のデータ

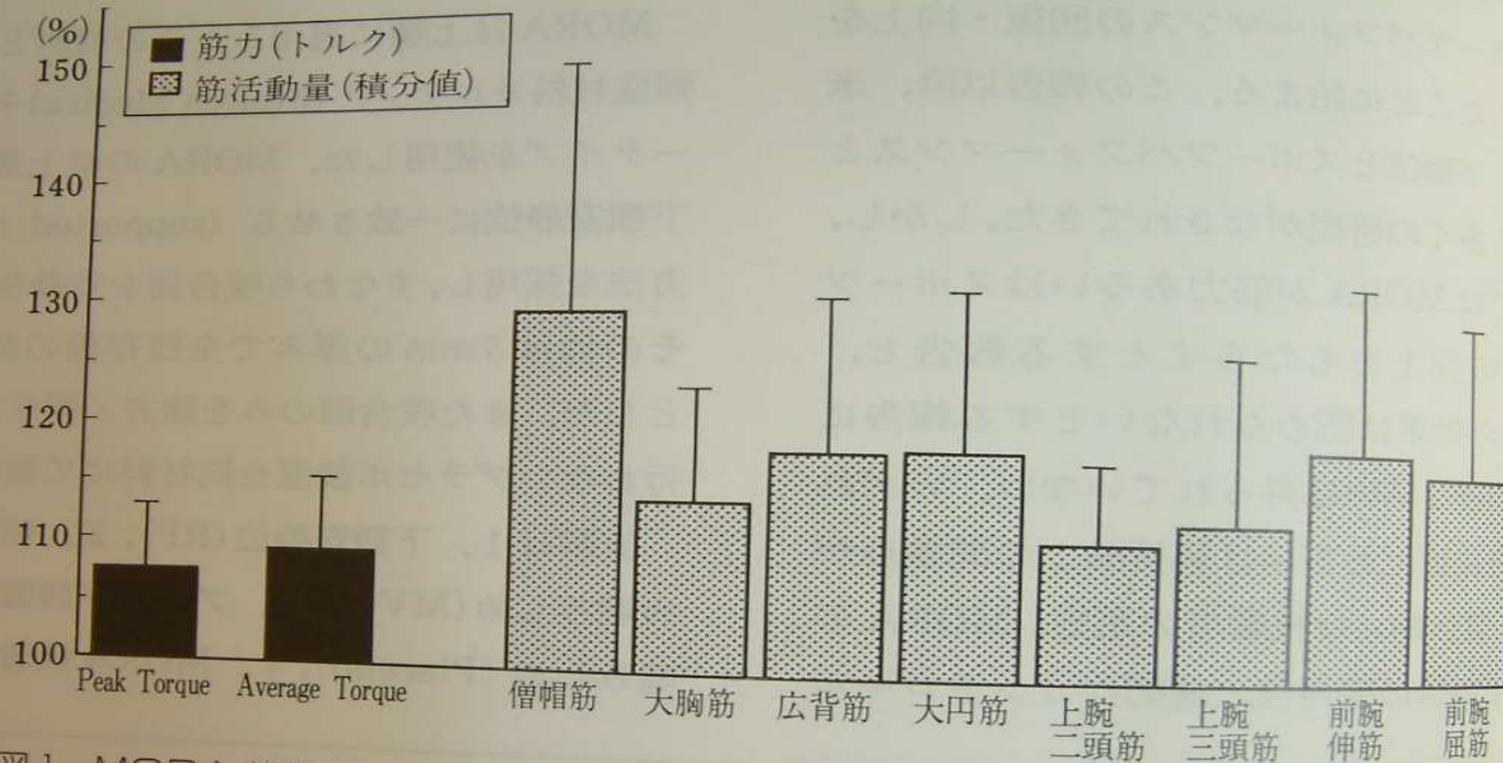


図1 MORA 装着位での最大噛みしめによる上肢等尺性筋力ならびに遂行関与筋8筋の筋活動量の変化

グラフの縦軸は下顎安静位時のデータを100として基準化した値であり、各ヒストグラムおよびエラーバーは被験者7名における平均値±1 S.D.を示す。

実験1の考察

本研究結果より、下顎安静位に一致させて咬合挙上する MORA を装着し噛みしめることによって、上肢等尺性運動時の筋力ならびに遂行関与筋筋活動量が増大することが明らかとなった。従来より筋力とスポーツ競技能力の間には密接な関連性があることが知られていることから^{3,4)}、上肢等尺性筋力を大きく、あるいは頻回に要求されるスポーツ競技においては、MORA を装着して噛みしめることによって競技能力の向上が期待できることが示唆された。

また、本研究で使用した MORA は弾性材料を用いて上顎に装着するタイプとしたことから、スポーツ時の外傷予防のためのマウスガードとしての要件を備えており、マウスガードがスポーツパフォーマンスの向上にも寄与しうることが示唆された。